

令和6年8月7日

令和6年

第8回教育委員会定例会会議録

大田区産業プラザP i O コンベンションホール

令和6年8月7日（水曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（19名）

教育総務部長		今 井 健太郎
参事（教育施設担当）		河原田 光
教育施設担当課長		小野澤 行 平
副参事（教育施設調整担当）		小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）		長 岡 誠
学務課長		高 野 恭 子
指導課長		細 田 真 司
学校支援担当課長		鈴 木 啓 介
教育センター所長		早 田 由香吏
大田図書館長		後 藤 清
指導課 統括指導主事		中 治 謙 一
指導課 統括指導主事		秋 山 亮
指導課 統括指導主事		折 田 和 宙
指導課 指導主事		宮 澤 尚
指導課 指導主事		江 袋 勇 樹
指導課 指導主事		村 松 千恵子
指導課 指導主事		原 口 慧 史
指導課 指導主事		清 水 天 音
指導課 指導主事		桑 原 宏 一

3 日程

日程第1 令和7年度使用中学校教科用図書調査委員会からの報告

~~~~~

(午後 2 時00分開会)

○教育長

それではただいまから、令和 6 年第 8 回教育委員会定例会を開催いたします。

本日は、中学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員も出席しております。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は、定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に高橋委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「令和 7 年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、令和 7 年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を行います。

前回、第 7 回定例会において、教科用図書調査委員会、野口委員長及び柳副委員長から調査報告がありました。

また、延べ543名の来場者から406件の意見と、中学校全28校からご意見をいただきました。各委員には、教科用図書をお読みいただくとともに、調査報告及び区民、学校意見を参考に、真摯に調査研究を進めていただいたことと思います。

今回の教科用図書採択の審議対象は、10教科16種目です。審議は、本日と明日 9 日の 2 日間とし、10日は予備日といたしたいと存じます。これについてご異議のある方はいらっしゃいますか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

ご異議ないものと認め、審議は 2 日間といたします。

まず本日は、国語、書写、社会（地理）、社会（歴史）、社会（公民）、地図、数学の 7 種目について審議を行います。審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日に繰り延べるということではいかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長

それでは、種目ごとに審議を行ってまいります。

初めに、国語について審議を行います。委員の皆様にご意見をお願いいたします。

### ○三留委員

国語は、三省堂を推薦いたします。今回、国語は4社ですが、どの社も問いや目標を示して、課題解決する力を高めるような構成になっています。各社の教科書の冒頭ページは、話す、聞く、書く、読む、の各領域で、身につけたい力を、知識、技能、思考力、判断力、表現力の関わりで示すとともに、その力をどの教材でつけるのか、教科書内の教材との関連が分かるようにしています。三省堂はマトリックス図を用いて、具体的にどのような力をつけることが必要なのかを示しています。

「教科書の使い方」のページでは、主体的・対話的で深い学びを実現するために、読むこと、話すこと、聞くこと、書くことの各領域での学習過程を分かりやすく示しており、各教材の流れもそれに準じています。

各社の読むことの題材の扱いを比較いたしました。どの社も目標を二つ程度示し、学習を進めるようにしています。三省堂は、目標の重要なキーワードにマーキングをしてあることも工夫と感じました。

さらに、各社、題材文の後に、「手引き」などの名称で学びの方法を紹介して学習を進めるようにしています。題材文の前にも後にも、学びの方法を示している社もありました。三省堂は、題材文の後の「学びの道しるべ」に学びの過程を示して、学習の流れごとに何をするのか、見通しを持って学習を進められる内容になっていると感じました。学校意見の中にも、三省堂の「学びの道しるべ」の構成のよさを指摘する意見がありました。

「学びの道しるべ」で特徴的なことは、くらげチャート、ウェビングなど、思考の方法を多様に示していることです。これも必要なことと思いました。

「走れメロス」は、2年生の全ての社の教科書に取り上げられています。4社の目標や課題を比較しましたが、それぞれに違いが見られました。三省堂は、「文章の構成や展開に即して、人物の心情を捉え、表現の効果について考える」「登場人物の人物像について、自分の考えを広げたり深めたりする」となっていて、語句の表現の効果に着目し、登場人物への考え方を深めるような課題で、作品の魅力に迫るための目標になっていると感じました。

「学びの道しるべ」では、「構造や内容を捉える」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」の学習の流れに沿って明快に学習の仕方が示されており、目標に迫る学習ができると思いました。

「学習を広げる」では、「この小説を映画化するとして、キャッチコピーを作ってみよう」とあり、発展的な取扱いにも工夫が見られます。

1、2年生の説明文、3年生の論説の最初の教材では、題材をセットにして作品を深く読み取らせようという構成が見られます。最初に、簡略でねらいに迫るための捉えやすい短い文章の題材を扱わせます。私は、これを練習教材と呼んでいます。その後、練習教材で培った学習の仕方を駆使して、典型的な題材としての主教材を読み込むような構成になっています。

例えば、1年生の説明文のセット学習では、「ペンギンの防寒着」という練習教材で、脚注などを活用して、序論、本論、結論における読みのポイントを説明しています。脚注では問いをつかみ、答えに結びつけるための記述の工夫やポイントが示されています。主教材「クジラの飲み水」では、このような読み方を活用して読みを深めるという構成にな

っています。こうした構成は、生徒の読みの力を高めるために大切と思っています。

また、三省堂は読むことの教材の「学びを広げる」で示された学習活動が、次の書くことの教材に位置付けられるなど、読むことと書くことを関連づけて効果的に学習ができるような単元配列を工夫しているところがあります。例えば、2年生の小説「小さな手袋」では、この教材の「学びの道しるべ」の後にある「学びを広げる」で、登場人物の一人になりきって別の人物への手紙を書く活動が示され、次の教材である創作文の学習につながっています。同じ学年の論説「動物園でできること」でも、論説文を書く教材につながっています。

先月末に、文部科学省から全国学力・学習状況調査の結果が公表され、中学生全般に読むことに課題があることが指摘されました。生徒の読む力を育てる意味でも、三省堂は望ましい教科書と感じました。

古典教材については、学校意見で、三省堂は「見やすさ」「課題のよさ」「古典の学習が充実しそう」など、肯定的な意見が幾つかありました。古典については各社、題材に入る前に、興味を引く説明や解説など工夫が見られますが、1年生に出てくる古典の「竹取物語」は、4社全てで扱われています。ここでの目標を比べましたが、古典の作品の特色を感じ取り、読みを深めるという視点から、三省堂の設定が良いと感じました。

どの社も古典の原文を現代訳の読み下し文に挟んでストーリーを展開できるようにしていますが、原文のどこを取り上げるかについては、各社に違いがあります。

この作品の取扱いを巡って、三省堂では導入に「月を思う心」という見開きのページを設け、月に関わりのあることについて興味を広げさせるようにして、竹取物語につないでいます。また、題材の終わりにはビジュアルな「絵巻でたどる竹取物語」を見開きで示しています。こうした構成になっているのは三省堂だけで、イメージを広げたり、読みを深めたりするために良いと思いました。

古典教材については、ほかの学年でも興味深い教材や内容が取り上げられていると思いました。

三省堂の特色として、「読み方を学ぼう」というタイトルで、作品をより深めるための方法を種類別に示しているページがあります。説明文の基本要素、三角ロジック、要約、状況・背景など各学年6から8程度紹介し、学習に活用できるようにしています。教科用図書調査委員会報告では、三省堂は「読み方を学ぼう」で文章の構造を理解して読むことができるようにしているとありますが、私も必要な記述と思いました。

教科書後半にある資料ページも充実しています。生徒を読書へいざなう「小さな図書館」から始まり、小説、論説、古文など様々な作品が載せられています。質の高い作品が多く、若者の読書離れが指摘されている中、こうした取り上げ方も大切と思いました。

このほか、「社会生活に生かす」のコーナーでは、著作権と引用、話合いの形式など、生徒に知らせたいことがつづられています。文法のまとめのページや学習用語辞典もこれまでの学習の確認や復習、振り返りに大切と思いました。

三省堂は習得と活用、対話的・協働的に学びを意識して作られており、生徒が自ら問いを持ち課題解決する中で、言葉の力、国語の力が身につく、活用ができる教科書と捉え、推薦することといたしました。

## ○高橋委員

国語は光村図書出版を選びました。教材が読みやすく、挿絵などから場面を想像できるので、理解しやすくなっています。

SDGsに関連するテーマを幅広く取り上げています。「学習の見通しを持とう」では、話す、聞く、書く、読むに分け、1年間でどんな学習をし、どんな力を身につけるかを見通し、他教科やSDGsの関連も意識しようとして示されています。

見開きページで各学年に詩と美しい写真があり、これから学習する意欲につながります。

各単元の扉には1年生「様々な動きを表す言葉」、2年生「色の名前を表す言葉」、3年生「一日の様々な時間帯を表す言葉」が示されていて、写真とともに言葉の豊かさや美しさを味わえる工夫があります。

「語彙を豊かに」の学習があり、語彙ブックが資料編の前に挟まれていて、ぴったりの表現を見つけ、伝えた思いを言葉にするために活用できます。

教材の下段に新出漢字、音訓、注意する語句、広がる読書が示され、「学習活動」、「目標」、「学びの扉」、「学びのカギ」には学習のポイントが示されています。

「本の世界を広げよう」のページでは、作者の紹介、分野別の読書案内があり、読みたい本が見つかります。

「竹取物語」では、貴公子たちの失敗談を絵巻で説明し、言葉遊びで締めくくられている教材は、古典に親しみやすく、興味深いです。「つながる古典」の一覧は、古典作品の作者たちが影響を受けたりしたつながりを感じて、興味深いです。資料編には、「学びのカギ」の一覧がまとめて示されていて、学んだことの確認ができます。

読書感想文、文章の推敲、原稿用紙の使い方、敬語を使う、手紙の書き方など、参考にできます。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定的意見が多いと報告されました。

以上の点から、光村図書出版を推薦いたします。

## ○北内委員

最初に、全ての教科用図書において、私の推薦にあたっての基本的な姿勢をお話しします。私は、保護者、PTA・PTO、区民代表として、この場に居ると思っています。ですから、その立場から、おおたのこどもたちにとって良いと思った教科用図書を推薦しました。具体的には、中学校教科用図書調査委員会からの報告、「資料作成委員会報告書」

「学校意見」「区民意見」、第3期「おおた教育ビジョン」の事業実績と評価、今年度策定した5か年計画、第4期大田区教育振興基本計画「おおた教育ビジョン」。これらの報告書とご意見を踏まえて、大田区基本構想で掲げた将来像である「心やすらぎ 未来へは ばたく 笑顔のまち 大田区」の実現に向け、心技体、総合的な人間力の育成に資する、おおたの生徒に相応しいと考えた教科用図書を推薦しました。どの教科用図書も素晴らしくて甲乙付け難く、私にとっては、難しい選択でもありました。

その上で、国語は、光村図書出版を推薦します。

理由は、おおたの生徒に是非、読んでほしいと思う不易流行を押さえた作品の選定、更に、「広がる読書」「本の世界を広げよう」での図書紹介の充実、他教科との連携も図れ

る学際的作品の充実、デジタルコンテンツの充実、を挙げることができます。また、学校の授業だけでは時間に限りもありますので、生徒が自学自習でき、主体的により深い学びができるように配慮されている点も良いと思いました。

具体的には、1学年「四百年のスローライフ」渡辺佑樹。四百年も北極海にすむニシオンデンザメの生態についての研究紹介で、知的好奇心をかき立てます。彼とは、南極地域観測でもご一緒させていただきました。2学年「クマゼミ増加の原因を探る」沼田英治。身近なクマゼミの増加の原因探求から都市化、ヒートアイランド現象、温暖化、環境問題へとグローバルな視点から考えることができる良い題材です。また、図・グラフなど関連情報を用いて、仮説を検証する学際的作品でもあります。3学年「アラスカとの出会い」星野道夫。十代の頃、神田の古本屋街で出会った一冊のアラスカの写真集から自分のやりたいことに突き進む、人生について考える作品です。私もアラスカ大学に約4年半勤めました。星野道夫さんの影響は、かなり受けました。

国語に関しては、本区学習効果測定結果及び第3期「おおた教育ビジョン」の事業実績と評価から光村図書出版を使用した指導による成果が表れていると言えます。また、その内容は、第4期「おおた教育ビジョン」とも合致しています。

区民意見は拮抗しましたが、学校意見は光村図書出版に肯定的です。

以上から、私は光村図書出版を推薦します。

#### ○深澤委員

私は、国語は光村図書出版を推薦いたします。

推薦する理由は五つありますが、まず一つ目は、光村図書出版は言葉の持つ力の大切さについて、各学年の教材で取り上げているという点です。

中1では、「はじまりの風」の著者が二次元コードにおいて、この題材を通じて言葉によって自分を育てていくこと、言葉によって周りの人や生き方に出会っていくことを伝えたかったと語っていました。ICTを使い、著者から直接その題材に託した意図を聞くことで、題材に対する理解がより深まると思いました。

中3の「それでも言葉を」では、言葉と思考が二極化した現代社会において、両端の間に息づく言葉の大切さについて論じていました。歴史をひもとけば、人々をあおる言葉が戦争を構成していくこともあれば、口をつぐむことで人々を戦争へ押しやることもあると書かれていました。

言葉には歴史をつくり、未来を変える力があります。誰にとっても身近な言葉ですが、それゆえ言葉の持つ力の大切さについて深く考えてみるのが、これからの未来社会を担う中学生にとって大切だと思いました。

二つ目は、各題材ごとに「学びへの扉」というページがあり、その題材について著者の意図や、登場人物の心情等を段階を追って読み解き、その結果や感想を話し合う、書くという学習ができるようになっていました。さらに、その題材を学習するにあたり、ポイントとなる部分については、「学びのカギ」として図解して説明がなされていました。読む、話す、聞く、書くという各言語活動をバランスよく学ぶことができ、思考力や想像力を養い、言語活動を豊かにする構成がされていると思いました。

三つ目は、国際化の意義や視点がおおた教育ビジョンの個別目標に合致しているという

ことです。国際化に関する題材が各学年で掲載されていましたが、その中で特に私が注目したのは、中3の「温かいスープ」というお話です。そこでは国際性の基本は、外国語の能力ではなく、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという自覚であること、求めるところのない隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調であると示されていました。

おおた教育ビジョンの、世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成しますという個別目標2は、生徒にこの題材で示すような人類愛を養ってほしいという願いが込められておりますので、ぜひそのような感覚を育成してほしいと思いました。

四つ目は、各学年の巻末に「学びを深める」があり、文法、漢字、国語の力試しなどがまとまって掲載されていきました。語彙ブックも日常でよく使われる有用な語彙が豊富に掲載されているので、良いと思いました。

五つ目は、学校意見でも区民意見でも、光村図書出版に好意的な意見が多数あったということです。

以上の理由から、私は光村図書出版を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私は光村図書出版を推薦いたします。4社とも構成的にはあまり変わらないと思っております。ただ国語力は大変重要なものだと考えておりますので、読みやすく、想像できるような、そして発展性のある読み物が多く載っている教科書が良いと思いました。

さらに課題解決のための国語力を身につける手引きなどもあって、非常に良いと思いました。「学びの扉」では主体的に学習に取り組むときに役立つと思います。

「学びのカギ」では、学習のポイントや前後とのつながりを確かめることで、振り返ることができ自分の学びを深めていくことができると思いました。

「国語の力試し」、CBTですがコンピュータを使用した試験で、これで受講評価ができます。それによって今自分にとって何が課題になっているか、何を確認することが必要であるかということが自分で分かると思うので、利用すると非常に良いと思います。

文章の中では、私は医師である中村哲さんの話が好きでした。感染症での研究と治療目的でアフガンに入った先生ですけれども、人間が生きていくためにはやはり作物を育てなくてはいけない。そのためには水が必要であるということから、用水路の建設に尽力した方ですけれども、途中で銃撃されて亡くなってしまいました。この文章から、あるいはほかの文章からでも同じですけれども、他教科等とのつながりができると思いました。感染症についてどうしたらいいだろう、あるいは作物を育てるにはどのようにしていったらいいだろうか。水の汚染について、どういうふうにかえたらいいだろうか、などほかの科とのつながりが、色々読み取れると思いました。

それから資料編の内容が充実していること、さらに思考力、表現力を高める語彙ブック、これも良いと思いました。

巻末にICT活用のヒントでは、二次元コードが一覧で1か所にまとめられていて、使いやすいと思いました。

以上から、個人的にも何度も読んでもらいたい、また何度も読みたい、心を動かされる内容の教材が一番多いと感じた光村図書出版を、中学生に読んでもらいたいと思って推薦

いたします。

#### ○教育長

私は、国語は光村図書出版が良いと思いました。社会の状況を見ますと、これからの社会を生きていく子どもたちには、確かで豊かな国語力が必要であると強く感じております。立場や利害の異なる人とも議論を重ねて、共通点を見出しながら協働するためには、言葉の力は欠かせないものであると思います。

光村図書出版は、豊かな国語力を身につけるために、教材や学習過程が工夫されているように思います。2年生の教科書には、詩人の大岡さんの「言葉の力」という作品が載っています。京都の染物の見事な桜色は、花びらからではなくて桜の幹の皮を煮詰めて出された色であるということ为例に、人間の言葉も幹となる人格からにじみ出てくるものであるということ述べているというふうに思います。

言葉には、その人の感性や知性や価値観がにじみ出てくるように思います。生徒たちが言葉の価値、役割について深く考え、捉えることができる良い教材であると思います。

また、1年生の米倉さんの書いた「大人になれなかった弟たちに」という教材も、中学生のときにぜひ読んでおきたい教材であるように思いました。

読書を通じた感動体験は、中学生の人格形成に大きな影響を持つものであると思います。光村図書出版は学習の途中や発展として、生徒が多くの本を手取るようにしています。読書へのいざないという点で、豊富であるというふうに感じました。

加えて光村図書出版は、読むことから話し合うことや書くことに学習を発展させるなど、国語の力が総合的に身につくように、単元の構成がよく工夫されているように思いました。3年生の最後の単元「未来に向かって」では、人と人との関係、人との出会い、ときとともに変わらないもの、自分の可能性などに関わる四つの作品を取り上げておりますが、中学生3年間の歩みを最後に文章として書き、卒業にあたって、自分の生き方を考え、表現し合うという卒業をむかえる生徒としてふさわしい大切な活動も構成されているのも良いというふうに思いました。

以上により、光村図書出版が良いのではないかとこのように思います。

それでは審議のまとめをしたいというふうに思います。国語につきましては、光村図書出版が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、国語につきましては光村図書出版といたします。

続いて、書写について審議いたします。委員の皆様にご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

書写につきましては、光村図書出版を推薦いたします。書写も、目標を設定して活動しながら技量の向上を図るという構成が、目立つようになりました。

光村図書出版は、冒頭に「中学書写スタートブック」というページがあり、姿勢や筆記

具の持ち方のほか、毛筆の準備、片づけといった基本的事項を押さえています。各社にも同様のページがありますが、光村図書出版はポイントが分かりやすく示しており、確認するために写真で位置を示したチェック欄を作るなどの工夫もあります。中学校の書写の初期指導にあたっては、必要なことと思いました。

各社、書写ならではの学習の流れを設定して、進められるようにしています。光村図書出版は、本編の各ページで、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の流れを設定しています。「考えよう」では、何をどのように学ぶのか、きちんとした課題が設定されています。「確かめよう」には、「学びのカギ」の囲みがあり、書くときのポイントが的確に示されています。全体的に必要な情報を焦点化し、読みやすい構成になっていると感じました。初めて学ぶ行書のページも、分かりやすく記述されていると思いました。

これからの書写については教え込むだけでなく、こどもの気づきや考えを生かして進めることも大切になると考えています。光村図書出版は「確かめよう」で、穂先を朱色にした図柄を用いて詳しい書き方について説明しています。擬態語を用いて説明するなど、筆先をどう動かせばよいのかよく分かります。また、各手本の脇には小さい文字で、同じく朱書きを入れた書き順や、筆先の場所を示すなどしています。これも生徒が書くときの参考になります。

上下見開きで半紙原寸大の手本ページになっているのも、良いと思いました。

また、光村図書出版の大きな特徴は、「書写ブック」を作り、硬筆教材を別冊にしていることです。別冊のため教師が硬筆の学習状況を把握しやすいという良さもあります。光村図書出版は教職員の支持が多くありましたが、別冊にすることで使いやすいという指摘もありました。

各社、「書写活用ブック」「資料編」「書式の教室」などの名称で、手紙やはがきの書き方、入学願書の書き方、原稿用紙の書き方、レポートの書き方などが掲載されています。

光村図書出版は、「書写ブック」の中で、日常生活に関わる様々な書式について、丁寧な解説と説明がなされていると思いました。実生活に生かすという点で、タッチペンを使った書類の書き方例が取り上げられているのも良いと思いました。

書き初めについては各社巻末に示していますが、光村図書出版は「書き初めマスターブック」と称して書き初めの由来、各地の取組から準備の仕方、配列、分析など相当詳しく解説しています。生徒に知らせておきたいことと思いました。

QRコンテンツも大幅に改定されていて、二次元コードからポイントや解説がついたお手本の動画を見ることができます。運筆については、生徒の視点に近い斜めからの映像があるなど、手本以外の動画コンテンツが豊富に用意されているのも良いと思いました。

以上の理由から、書写は光村図書出版を推薦いたします。

#### ○高橋委員

書写は光村図書出版を選びました。見本と筆遣いがとても分かりやすく示されています。毛筆への学びを硬筆に生かせる「書写ブック」があり、言葉を書こう、都道府県名、年賀状など、それぞれなぞって書く練習ができます。

1年生では、楷書の漢字の筆遣い、筆順、外形と中心、点画部分の組立て方、行書の点

画の変化、連続、省略、筆順の変化、2年生は点画の省略、筆順の変化、3年生は「書写テストに挑戦しよう」と基礎・基本の学びに取り組むことができる。「中学書写スタートブック」は基本である姿勢、筆記具の持ち方、用具の準備、片づけ、学習の進め方、タブレット学習の活用、字形の整え方など確認できる。点画の種類を確認した後に、漢字の筆遣いでは、始筆、送筆、終筆のリズムを意識すること、線の太さは筆圧で調整するなど、筆遣いを図解してあるので分かりやすい。

行書の学習では、楷書と比べ、点画の変化、連続、省略、筆順の変化を行書スイッチで確認、意識する「学びのカギ」を示しています。

コラムには文字の歴史を探る「全国フォント見つけ隊」、「ユニバーサルデザインフォントって」、「自分らしい文字」、3年生の学習の初めにある「全国文字マップ」など、身の回りに様々な文字があることを確認できるものでした。「日常に役立つ書式」がまとめられてあり、とても参考になり、将来にわたっても役立つ学習です。

「書き初めマスターブック」は書く準備、教科書を分析して「自分だけの練習用紙を作ろう」、「配列をマスターしよう」があり、参考になります。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定意見が多いと報告されました。

以上の点から、光村図書出版を推薦します。

#### ○北内委員

書写は、光村図書出版を推薦します。

理由は、限られた指導時間の中で確実に身に付けさせたいことが焦点化され、使いやすくシンプルな紙面構成と2次元コードを多用したデジタル教材のバランスが良いからです。例えばデジタル教材では、字形の整え方等のポイント解説が付いたお手本の動画や、運筆では真上からだけでなく生徒の視点に近い斜め上からの動画を見ることができます。お手本以外の教材についても動画コンテンツが豊富に用意されています。生徒が自学自習でき、主体的により深い学びができるように配慮されていると思いました。また、硬筆の教材が、別冊の書き込み式の「書写ブック」で用意され、十分な練習量を確保することができる点も挙げることができます。

私は、特に、手書きとデジタル、それぞれの良さをバランス良く教材にしている点にも着目しました。手書きの良さを、手紙、はがき、送り状、入学願書、原稿用紙、レポートの書き方で紹介し、デジタルの良さをメール、タッチペンでの署名、プレゼンテーション、デジタル付箋で紹介しています。そして、防災フェスタを例に、手書きとデジタルの使い分けを実践しています。おたの生徒には、手書きとデジタル、両者の利点を学んでほしいと思いました。

学校意見、区民意見、共に光村図書出版に肯定的です。

以上から、私は光村図書出版を推薦します。

#### ○深澤委員

私は、書写については光村図書出版を推薦いたします。国語の教科書については、光村図書出版を推薦したいと思っておりましたので、書写も同じ会社が良いと思いました。

そのほかには、光村図書出版では「書写ブック」が折り込まれており、取り外して使う

ことができるため、限られた時間数の中で効率よく使用することができるという点と、楷書における点画や部分の組立て方、行書の書き方の原理原則等の説明が分かりやすく書かれていた点、実際に書き込んで練習することができる点が良いと思いました。

行書は、点画の連続、点画の省略、点画の変化、筆順の変化の点で楷書と異なるため、楷書と行書と並列して記載があり、行書では楷書のどの部分がどのように変化しているかを明確に押さえている点が良いと思いました。

常用漢字表ではあいうえお順で、人名用漢字表では画数順に楷書と行書を併記して書いてありました。

部分別行書一覧では、楷書に近い形から草書に近い形までの書き方が記されておりましたので、書写に興味ある方は、さらに深く学ぶこともできると思いました。

二次元コードで行書の書き方が示されているのは、分かりやすく良いと思いました。以上の理由から、光村図書出版を推薦いたします。

### ○弘瀬委員

私は光村図書出版を推薦したいと思います。1冊の教科書と思われたものが、別冊の「書写ブック」が切り離して使うことができびっくりしました。毛筆で学んだことを硬筆に生かし、繰り返し学ぶことで書く力を身につけるようになっていきます。また、分量が多いので、硬筆の練習としては十分ではないかと思えます。

「行書スイッチを入れよう」という動画では、スイッチを入れると楷書を行書に変化させ、行書の特徴である点画の連続、変化、点画の省略、筆順の変化などアニメーションとして見ることができて面白いと思いました。

巻末の「書き初めマスターブック」では、書き初めの由来やポイントがまとめてあり、主体的に取り組むことができます。

筆遣いの動画は、楷書や行書の筆遣いを2方向から映像で解説されているので、非常に分かりやすいと思いました。

「文字の歴史を探る」など、興味深く読みました。

実社会の生活に生かすことができるように、タッチペンを使った署名の書き方例やプレゼンテーション、デジタル付箋の説明など、1冊の本で豊富な学びができます。

文字は美しく、正しく書くためには、まず書き方の姿勢と筆記用具の持ち方だと考えております。きちんと習ったはずなのに、気がついたら自分なりの持ち方に変わっています。実社会ではこれからパソコンが中心となって、硬筆、毛筆などを使う機会はほとんどなくなっていくと思われそうですが、必要になったときに美しい文字が書けることを希望して、光村図書出版を選びました。

### ○教育長

私も光村図書出版が良いと思いました。まず毛筆では、手本が実際に書く半紙の大きさと同じ大きさになっていて、生徒にとって大変練習しやすいというふうに感じました。また、手本の中に穂先の動きや筆の運びが示されていて、二次元コードなどを活用しながら、運筆をしっかりと学ぶことができると感じました。

また、2年生では、楷書と行書が並べて掲載されております。楷書から行書への変化が

分かりやすく、こどもたちも行書で書くことへの意欲が出るように思いました。書くスピードを上げて美しい文字を書く意識が持てるのではないかというふうに思います。

また、「行書を活用しよう」という例もあり、日常生活でも筆を使って行書で文字を書くことにつながっていくというふうに思いました。

また、生徒が毛筆で文字を書く機会として、書き初めは大変大切な学習だと思いますが、光村図書出版には1年、2年、3年、それぞれの学年の書き初めの用紙大の手本があります。生徒がしっかりとそれを見て書き初めの練習に取り組みやすくなっているというふうに感じました。

また、別冊の「書写ブック」が良いと思いました。タブレットの活用など鉛筆で文字をしっかりと書く機会が減っているのではないかという心配がありますが、書写ブックを使って形をそろえて美しく文字を書く、硬筆で文字を書くという機会になるというふうに思います。

さらに、教科書にある常用漢字表も楷書と草書で、練習に使用すれば整えた文字を硬筆で書く練習に効果があるというふうに感じました。

それでは、審議のまとめをいたします。書写につきましては、光村図書出版が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、書写については光村図書出版といたします。

続いて、社会（地理）について審議いたします。委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○三留委員

地理につきましては、帝国書院を推薦いたします。各社の単元配列を見ますと、どの社も「世界と日本の地域構成」「世界の諸地域」「日本の諸地域」「地域の在り方」の順になっています。

巻頭で帝国書院は、「地理的分野の全体像」というページを設けて、歴史的分野や公民的な分野との関連を含め、四つの内容に関わる2年間を通した学びについて、地理的分野を学ぶ意義を含めまとめています。さらに、単元を通した学び、毎時の学び、QRコンテンツの活用など、教科書を活用した学びについてもきちんと示しています。

現行学習指導要領では、各教科で見方・考え方を重視しているところですが、社会科の中で地理的分野においては、これまでも地理的な見方・考え方については、学習を深めるために必要なこととして取り上げられてきました。見方・考え方について、帝国書院は巻頭に地理的な見方・考え方のページを設け、位置や分布、人間と自然との関わりなどについて、キャラクターの会話を通して具体的に説明しています。考えを整理する方法の提示では、マトリックス、ウェビング、ベン図などを様々な活動が例示され、生徒の思考力、判断力、表現力を高める上で、優れた学習方法を示していると感じました。

また、帝国書院は主体的な学びを意識して、章、節のまとまりを重視しています。冒頭

に章または節の問いがあり、章末または節末には「知識」「思考・判断・表現」「主体的な学び」について学びの振り返りをしています。各見開きページに単元である節または章の問い常に載せているのは、単元のまとまりを重視している証左と考えます。問題解決的学習を進める上で、私は必要なことと思っています。

各ページの最初にある導入資料は、生徒の関心を引きそうなものが多く、学習課題に的確につながっています。問いの解決につながる写真や統計なども豊富です。写真は多くが断ち切りで掲載しているため、点数の割に小ささを感じません。問題解決の学習を進めるのにも優れた教科書と思いました。本文も分かりやすく丁寧に記述されていると思います。

「日本の諸地域」の学習の最初の見開きページには、イラスト地図が載せられています。学習の導入として、その地方の学びの概観ができます。

「世界の諸地域」の冒頭は、「写真で眺める」というタイトルで、地域に関わりのある印象的な写真がダイナミックに掲載されています。学校意見でも「写真で眺める」は地域の姿を実感できるという意見がありました。その後、自然環境、歴史・文化、産業、各種の地球的課題とそろえて記述してあるため、それぞれの州、地域の特色が捉えやすいと考えました。

また、「アクティブ地理」というコーナーがあります。持続可能な社会に関わって、様々な課題について考えをまとめさせるページでもあり、生徒には行わせたい活動と思いました。

ページのあちこちには「技能をみがく」という囲みがあり、地理の学習の基本的技能について解説しています。地理学習で主要なポイントを解説しており、基本的技能の定着につながると思いました。

帝国書院では、「技能をみがく」以外にも幾つかのコラムがあります。学習内容に関連した事例を紹介する「地理プラス」、環境・エネルギー、防災、人権・多文化、平和・安全、情報・技術、伝統・文化などの取組を紹介する「未来に向けて」などです。SDGsに関わっても生徒に知らせたい内容が多くありました。

帝国書院はQRコードの量も質も充実しており、個別最適な学びに役立つと思いました。

以上、帝国書院の地理は異文化理解、国土理解において優れ、主体的、多様な学びに対応した教科書と捉え、推薦することといたしました。

#### ○高橋委員

地理は帝国書院を選びました。巻頭に、「よりよい社会を目指して」として、地域のよりよい発展を目指すSDGsの取組が、写真と17の目標で紹介されています。単元を通じた学びは、「写真で眺める」から単元の学習内容に対する問題意識や興味・関心を高める節の導入で、写真とその場所を示す地図を読み取る活動を通して学習内容を見通し、「単元を振り返ろう」で学んだことを確認します。毎時の学びは導入資料、学習課題、本文、周りに資料が多く掲載してあり、下段に小学校で学習したこと、歴史、公民、他教科との関連があり、学習の終わりには「確認しよう」、「説明しよう」があり、学習内容を確認

したり振り返ることができる。学びを深める工夫で、地図帳を活用する学習活動が示されています。特設ページ、コラムの「アクティブ地理AL」では、主体的・対話的で深い学びを实践でき、「技能をみがく」には学習に必要な技能を習得でき、「未来に向けて」は環境・エネルギー、防災、人権・多文化、平和・安全、情報・技術、伝統・文化の6テーマから未来をつくる取組を示し、「地理プラス」は学習内容に関連した事例を紹介しています。

日本の諸地域の学習の前に地域調査の仕方があり、地形図など学習し、グループ活動の学習が示され、日本の地域的特色を学び、自然災害、地球温暖化など学習することができます。

また、「地域のあり方」で様々な課題を振り返り、追究するテーマを決め、活動する学習が示されています。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定的意見が多いと報告されました。

以上の点から、帝国書院を推薦します。

#### ○北内委員

社会（地理的分野）は、帝国書院を推薦します。

理由は、各章・各節（大単元）の始まりで「問いかけ」が示され、各小単元の冒頭ではその単元の「学習課題」だけでなく大単元の「問いかけ」も再度示され、学習の目的が明確にされ、授業での生徒同士のディスカッションなど協働を通して、解説・写真・図・表・グラフから「確認しよう」「説明しよう」で、思考・判断・表現を育成できる構成となっているからです。

その他、各地域の特色を撮らえたカラフルな写真が多く掲載され、見ているだけで行きたくなると思わせる点、「石狩平野の土地改良」や「ザンビアとジンバブエの国境」など、模式図と写真を適材適所に用いて説明している点、日本の領域（領土、領海、領空）について、写真と図及び国際法を交えて本文中で明確に述べられている点、地図、資料などの配置と配色のバランスが良い点も推薦理由に挙げることができます。

地理的分野に関しては、本区学習効果測定結果から、区内中学生の大きな課題として、資料を的確に読み取り、自分の考えを明らかにすることが挙げられています。本教科用図書は、資料から考えさせる課題が多く設定され、おおたの生徒に適していると言えます。

学校意見、区民意見、共に帝国書院に肯定的です。

以上から、私は帝国書院を推薦します。

#### ○深澤委員

私は地理については、帝国書院を推薦いたします。おおた教育ビジョンは、持続可能な社会をつくり出すグローバルな人材の育成を基本方針1で目指していますが、グローバルな人材を育成するためには、自然的要因のみならず歴史的な要因から現在の課題に結びつく過程を学ぶことが有用であると考えました。

帝国書院の教科書は、その地域の現在の事象を学ぶにあたり、どのような歴史的な経過があったのか、現在の課題は何か、課題を解決するためにはどうしたらいいかと、順序立てて考える構成になっています。

例えば、現代的な課題として各国の経済格差を掲げていますが、中国の経済格差は1980年代からの工業化が原動力となり、経済が発展したことによる都市と農村、沿海部と内陸部の間の人々の収入の差に基づくものと説明しています。

他方、ヨーロッパ州における経済格差は、1993年のEU統合後、EU内で行き来が自由になったこと、東ヨーロッパから西ヨーロッパに高い技術や能力を持った人材が流出したことで、EU間で経済格差が発生したためと説明しています。

一言で経済格差と言っても歴史的な背景が全く違うため、国によって課題解決方法が異なることを考える必要があることに、生徒たちが気づくことができるようになっていました。

節の振り返りでも、それぞれの国の自然的要因、歴史的要因から発生した事象や施策に対する課題を抽出し、課題解決方法を考えるという形式になっており、考察したことを論理的に説明する言語活動学習も行われる点が良いと思いました。

また、「地図帳活用」という記載があり、学びを深めるための工夫も適宜されておりました。

次に日本の地理についてですが、帝国書院では日本の地理を学ぶにあたって、最初に地域調査の仕方という章があり、地域調査をするに必要なテーマの決め方、地形図の使い方、野外における調査方法、文献における調査方法など、詳細な説明がなされていました。

日本の諸地域を学ぶ章では、学ぶ視点を、各地方の特色を捉える過程において、地域に見られる課題を人々がどのように克服してきたか、また課題にどのように取り組もうとしているかということにも目を向けてみましょうと示しています。課題を解決する力を育成するという取組は世界の地理を学ぶときと同じですが、日本の地理ではさらに「私たちに何ができるのか」という問いかけを考えていくことで、主体的に考え、行動し、協働していく力の育成というおおた教育ビジョン個別目標1の施策につながる学習に結びついており、よりよい未来をつくる人材育成に寄与するものと考えました。

SDGsの視点も多く取り上げられていました。「未来に向けて」というSDGsに関する項目が日本の地理の節の終わりごとに設けられているとともに、教科書の最後には、「地域のあり方」というテーマがあり、今まで学習したことを生かして持続可能な社会の在り方を考え、提言するために必要な進め方についての説明が掲載されていました。帝国書院の教科書は、地理の学習を通して持続可能な社会を考えていくという一貫した考えの下作られているのだということがよく分かりました。

また、学校意見や区民意見においても、帝国書院に好意的な意見が多くありました。

以上の理由から、私は地理については帝国書院を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私は、帝国書院を推薦いたします。教科書をまず開くと「未来に向けて」、「よりよい社会を目指して」ということで、各国とSDGsを結びつけていること、大田区のビジョンの中に一致すると思います。

帝国の構成は、「導入」、「学習課題」、「確認しよう」となっておりますが、導入では小学校の学習を振り返る資料、生徒と同じ世代のキャラクターを用いています。

「眺め」では、歴史、文化、産業などの写真が大きく見やすく、地域の特色が分かるようになっていました。

ヨーロッパや北アメリカ、南アメリカなど理解を深めるには、自然環境と人々の暮らしと関連づけながら理解することができて、面白いと思いました。

例えば「アクティブ地理」では、地域に見られる課題について具体的な四つのテーマを設定し、主体的・対話的で、深い学びを実践する特設ページがありました。

一つは課題解決に向けた取り組みを考えよう。二つ目は自然災害から命を守ろう。持続可能な観光について考えよう。地域に適した再生可能エネルギーを考えようという。そして「未来に向けて」の特設ページは全9テーマ、コラム31、「技能をみがく」全21テーマ、「地球プラス」では全24テーマなど、多くの特設ページやコラムで深い学びにつながっていくと思いました。

「小・歴・公」というところがあって、これは小学校の歴史、公民の学びを関連づける資料であり、学びを深める工夫の一つであると考えました。

以上から、私は帝国書院を推薦いたします。

#### ○教育長

私も、地理は帝国書院が良いと思いました。地理は、日本や世界の自然や文化、暮らしや産業について学ぶ教科ですが、その多彩さや多様さに興味や関心を持って学習に取り組むことが大切だというふうに思います。その観点で帝国書院は、日本や世界の自然、文化、暮らし、産業の多彩さを感じる資料が豊富に掲載されているように思いました。生徒たちは、実際に訪れてみたいとか、見てみたいというような意欲を持って、学習に取り組むことができるのではないかとこのように思いました。

また、帝国書院の地理の資料につきましては、大変豊富で、全体を通じて分かりやすく、生徒の地理的理解を助けることに十分に工夫され、精選されているように思いました。

また、初めの見開きには、「未来に向けて」、「よりよい社会を目指して」というタイトルの下、SDGsの取組について示されておりますが、写真とともに分かりやすく、大田区が目指すSDGsへの関心を高めるものであり、学習の動機づけに有効であるというふうに思いました。

さらに「アクティブ地理」として、地域に適した再生可能エネルギーを考えようという課題に取り組んだり、「地域のあり方」など地域課題に対して追究する単元などが設定されていて、生徒が地球環境、グローバルに考えたり、実際に自分の住む地域に目を向けたりする課題解決、そういうような充実した課題解決学習に取り組めるのではないかとこのように思いました。

それでは、審議のまとめをしたいというふうに思います。

社会（地理）につきましては、帝国書院が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

## ○教育長

それでは、社会（地理）につきましては、帝国書院といたします。

続いて、社会（歴史）について審議いたします。委員の皆様、ご意見をお願いいたします。

## ○三留委員

歴史につきましては、教育出版を推薦いたします。各社の冒頭の記述には様々な特色がありますが、教育出版は等尺年表を示して、歴史の捉え方、調べ方を分かりやすく解説しています。歴史に関わるゲームやパズルを示しているのも特色で、小学校の歴史学習を想起させ、歴史好きにしたり、興味を持たせたりする活動をしては、意欲を促し、良いと思いました。

さらに、「歴史的見方・考え方と学習の進め方」について触れています。中学校学習指導要領社会（歴史的分野）によると、「歴史的な見方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動をする事」となっています。他社の幾つかにも見方・考え方に関わる学習の進め方が示されていますが、教育出版はその中でも分かりやすい記述となっていると感じました。

学習指導要領総則では、指導計画の作成等にあたっての配慮事項において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加えることが述べられています。

教育出版は章のまとまりを大切にした構成が感じられます。さらに、章の最初の扉や見開きページは、社会の変化に気づかせるための絵図などのダイナミックな資料が掲載されるとともに、時代を概観するための問いが示されています。

章の学習内容に関わる事象等を紹介して、章の学習に興味を抱かせ、見通しを持たせるようにしています。また、章の終わりには、学習のまとめと表現のページがあり、年表や地図などを使ってまとめる作業をすることによって、章全体の振り返りや歴史概念の定着につなげようとしています。

学校意見で複数あったのが、各ページのタイトルと年表の記載のよさです。教育出版のタイトルは、他社と比べて学習課題に関わる核心を突いたものが多く、興味を引きます。さらに、教育出版の社会科教科書全般に言えることですが、各ページのタイトル下に学習内容につながるサブタイトルが使われていて、歴史については効果的に示されていると思いました。

例えば、戦国時代に関わるページでは、「下克上の上へ」というタイトルで、サブタイトルが「応仁の乱と戦国大名の出現」となっています。南北朝の争乱に関わるページでは、「このごろ都ではやるもの」という二条河原の落書の一部を引用したタイトルで、サブタイトルは「南北朝の争乱と室町幕府の成立」となっています。その他、「いざ鎌倉」、「太陽の沈まない国」、「御政事売り切れ申し候」など工夫したタイトルは、生徒の疑問や知的好奇心に結びつき、意欲的な学習につながると感じました。

年表で示している時代スケールについては、他社の各ページに示しています。中学校歴史教科書にはあったほうが良いと思っています。教育出版は他社と違い、タイトルの上部に時代スケールを置いていて、タイトルとすぐ対比することができ、効果的だと思いました。

た。

どの社も1時間1課題の学習の徹底を図っていますが、教育出版の学習課題は1時間ごとの学習で、何を追究しているのか分かりやすいと思いました。

時代の変革期は興味をそそられることが多い反面、生徒には捉えにくいことが多いと言われています。時代の変革期で江戸時代の末期の扱いについて、各社の比較をいたしました。

教育出版は、江戸幕府の滅亡、明治維新までの流れについて、開国の影響、安政の大獄、譲位運動の高まり、倒幕への動き、社会不安と世直しへの願い、幕府の滅亡と新政府の誕生と分かりやすい流れで文章は展開されていると感じました。また、この教材に関する学習課題は、他社が「江戸幕府はどのように倒れていったのか」「江戸幕府が滅ぶまでどのような動きがあったのでしょうか」というようなものが多かったのに対し、教育出版は「江戸幕府を滅ぼしたのは、どのような力だったのでしょうか」となっています。この問いのほうは江戸幕府滅亡に至る理由を深く多面的に考えることができ、後の生徒同士の話合いにも結びつきます。

補足になりますが、大田区にゆかりの深い勝海舟と西郷隆盛の会談については、絵と解説により5社が掲載しています。解説で、無抵抗で開城する代わりに、江戸のまちや人々が新政府軍の総攻撃による戦火から免れたことを紹介しているのは3社で、教育出版もその一つです。大田区、東京都で学ぶ生徒にとって、会談により江戸が戦火から免れたことを学ぶことは必要なことと思っています。

同じく変革期である応仁の乱と戦国の争乱に関わるページでは、多くの社が「応仁の乱をきっかけに社会はどのように変化したのだろうか」という課題なのに対して、教育出版は「地方の人々が力をつける中、社会はどのような変化があったのでしょうか」という課題になっています。内容も土一揆から入り、応仁の乱と下克上、戦国大名の支配と流れ、分かりやすく記述されていました。

中学校学習指導要領社会（歴史的分野）の内容の記述に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解するとあり、前時に学んだ民衆の成長を踏まえた課題は適切と考えました。

教育出版は、各見開きの右下に「確認」と「表現」という囲みがあります。「確認」は、学習内容を整理するポイントがきちっと示されていると感じました。「表現」は歴史的事象の特色について、自分なりに説明する内容になっています。生徒の表現力向上や深い学びに結びつきます。

学校意見の中に、「使いやすく見やすい」「歴史的分野に必要な社会の基礎的・基本的事項が的確に押さえられている」などがありますが、本文も学習指導要領の内容に即して平易に表記されており、生徒にとって時代の特色を捉えやすい教科書となっていると感じました。

資料も精選して提示してあり、キャラクターによるガイドや読み解きのヒントなどが上手に入れられています。

これからの社会科学習では、社会的には意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を身につかせることが重要です。教育出版は視点を変えて、学習内容を考えることができる「歴史の窓」というコラムがあります。記載の多くは生徒の興味を引き、多面

的・多角的な考察にもつながると思いました。

また、具体的事例、テーマを下に、歴史学習を深めるページとして「歴史を探ろう」という特設ページがあります。江戸をリサイクル都市として扱った「人口100万都市、大江戸の暮らしの工夫」など、生徒に読ませたいものが多くありました。

「歴史の技」という歴史学習の基本的技能を身につけるコーナーがあるのも、教育出版の特色です。図書館やインターネットの活用のほか、地図や系図を読み解くといったコーナーもあります。

学習指導要領（歴史的分野）、内容Aの（2）では、「地域の歴史について調べたりまとめたりする技能を身につけること」としています。教育出版は7ページにわたって「身近な地域の歴史を調べよう」の単元で、問いの設定、調査、考察、まとめと振り返りまでの過程を挙げて、地域の調査活動を紹介しています。

また、六つの章の幾つかにある地域調べに関わる特設ページでも、地域の調査活動を紹介しています。中世の学習では、大田区の生徒が校外学習でよく訪れる鎌倉を事例に、資料や調べ方が示され、活用できると思いました。

地域の歴史の扱いがしっかりしているのも教育出版の特色と感じました。

以上、総合して教育出版が良いと思いました。

#### ○高橋委員

歴史は東京書籍を選びました。本文の周りに写真、図、イラストなど資料が分かりやすくレイアウトされている。巻頭の「資料から発見！」で錦絵、浮世絵、屏風絵、絵巻物を掲載してあり、それぞれの絵から時代を読み取り、「歴史に学ぶ 持続可能な社会の実現に向けて」で歴史を学ぶ意義を示しています。学び方が「課題をつかむ」、「課題を追究する」、「課題を解決する」と示され、導入資料は大きく掲載してあり、単元ごと学習課題が示され、「チェック」で振り返り、「トライ」で取り組み、確認しながら学習できます。

「導入の活動」は小学校の社会で習った言葉、「みんなでチャレンジ」は対話的な学び、「探究のステップ」は探究課題が明示され、キャラクターのコメントからも学習が進めます。

「歴史の扉」の「歴史の流れ」は、縄文時代から現代までイラストが描かれ、単元ごとに色分けしてあり、単元の導入には、その時代を切り取って掲載してあるので、時代の流れが確認できる。また、ページ右端に年表が入れてあり、学習している年代が分かるよう工夫されている。

基礎的・基本的な技能を身につける「スキル・アップ」、学びを広げ、より深い学びにつなげる「もっと知りたい」、持続可能な社会の実現を考える「未来にアクセス」などコラムコーナーが多く、学びに活用できます。章末には「まとめの活動」があり、「確かめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」をキャラクターのコメントで学習でき、確認できる。巻末には用語解説、日本と世界の主な出来事の年表、歴史の中の植物の写真、旧国名地図、デジタルコンテンツの種類が掲載してあり、学習に活用できます。

教科用図書調査委員会は、学校意見で肯定的意見が多かったと報告されていました。

以上の点から、東京書籍を推薦します。

## ○北内委員

社会（歴史的分野）は、東京書籍を推薦します。

理由は、各章、各節（大単元）の始まりでそれぞれ「探究課題」、「探究のステップ」が、各小単元の冒頭ではその単元の「学習課題」が示され、学習の目的が明確にされ、授業での生徒同士のディスカッションなど協働を通して、解説・写真・図・グラフから「チェック」「トライ」で、思考・判断・表現を育成できる構成となっているからです。

その他、勝海舟と西郷隆盛の話し合いによる江戸城の無血開城と今年新一万円札の肖像となった「日本資本主義の父」渋沢栄一など、大田区ゆかりの人物を紹介している点、持続可能な社会の実現に向けて、環境問題と震災及びエネルギー問題を取り扱い、より深い学びができるように配慮されている点、漫画・アニメ、ウクライナ侵攻など最新の話題を取り入れている点、写真、図、資料などの配置と配色のバランスが良い点、デジタルコンテンツが充実している点も推薦理由に挙げることができます。

歴史的分野に関しては、本区学習効果測定結果から、区内中学生の大きな課題として、資料を的確に読み取り、自分の考えを明らかにすることが挙げられています。本教科用図書は、資料から考えさせる課題が多く設定され、おおたの生徒に適していると言えます。

区民意見は拮抗しましたが、学校意見は東京書籍に肯定的です。

以上から、私は東京書籍を推薦します。

## ○深澤委員

私は、歴史は東京書籍を推薦いたします。東京書籍を推薦する理由は三つあります。

一つ目は、年表が充実しているという点です。まず、各章の導入でその章で学ぶ時代の人物を中心とした年表が掲載されています。そして各ページの右端にある年表では現在学んでいる時代に赤い色が塗られており、さらに章の終わりには日本の政治、経済、社会、文化と東アジア、欧米を対比する形式での詳細な年表が掲載されていました。

二つ目は、政治、社会、文化、国際関係は相互に影響を与えながらその時代を形成していくものですが、東京書籍はそのような観点から歴史の継続性や変換点を捉えていたという点です。

例えば、室町時代に南北朝の動乱が終わり、政治が安定すると明や朝鮮との国際交流が盛んになり、それにより経済が安定、発達し、民衆も文化を楽しむ余裕ができたため、能や狂言が盛んになったという流れのように、政治、社会、文化、国際関係を断片的ではなく、それぞれのつながりの中で理解することができます。複数の出来事が絡み合い、成熟してその時代の特色を作り出したのだということが分かるように構成されているので、生徒たちが歴史に興味を抱いてくれることを期待できます。

また、特定の時代を多面的な角度から学ぶことができますので、歴史の必然性や過去の人々の知恵や努力等多くのことを学ぶことができ、先人が営んできた歴史をこれからの平和でよりよい社会に生かしていけると思いました。

三つ目は、大田区の学習効果測定から、社会においては、基礎的な知識の定着、資料から効果的にまとめる技術に課題があるとの報告を受けております。東京書籍は、各ページに「チェック」と「トライ」があり、基礎的な知識の確認と学んだことを深める工夫がさ

れていました。各章の最後に掲載されている「まとめの活動」では、資料から読み取ったり、考察する問題が多く出されていました。大田区の生徒に必要な学びという観点からも、東京書籍が良いと考えました。

以上の理由から、私は歴史については東京書籍を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私は東京書籍を推薦いたします。学習の導入部に導入資料を設け、目的をきちんとし、興味を持たせるようになっていきます。「学習効果」と「チェック&トライ」の学習の流れが見やすく、課題解決型学習ができるようになっていきました。「歴史的な見方・考え方をとらえる」、「歴史的な見方・考え方を働かせる」で学習を深めることができるのではないかと考えています。

豊富なQRコンテンツでさらに学びをサポートしてくれていると考えています。

「みんなでチャレンジ」では対話的な学習ができ、歴史についていろいろな考えを話し合う、ディスカッションするということは非常に重要なことだと考えています。

「スキル・アップ」で、歴史の学習に必要な基礎的な技能を身につける工夫がされています。

「もっと知りたい」は、学習内容にもっと興味を持ってもらうよう工夫がされていると思いました。

「ステップ」、「チャート」など多彩な思考ツールを活用してまとめることがさらにできると考えています。

また、大田区にゆかりのある場所、人物など紹介されているということなどから考えまして、東京書籍を推薦いたします。

#### ○教育長

私は、歴史は東京書籍が良いというふうに思いました。

生徒たちがこれまでの人間の歴史を振り返って、新たな未来につないでいく、そんな歴史的な視点に立って考える力を身につけることは、大変重要であるというふうに思っております。

これまでの歴史の学習は、ややもすれば1時間ごとの知識の理解、先生の説明を聞いてワークシートに書き込み、知識を覚えることに偏りがちであった歴史の学習、そういうものから生徒たちが自ら歴史的事象に興味を持って、課題意識を持って追究し、新たな知見を広げていく、そのような歴史学習をすることが大切であるというふうに思っております。

その点で東京書籍は、大きな歴史の中で生徒が学習課題を設定し、課題解決に向けた学習を積み上げていけるように、単元の構成が大変工夫されているように思います。

東京書籍は各章ごと、各節ごとに探究する問いや課題があります。第6章では「日本はどのようにして戦争に突入していったのでしょうか」という探究課題があり、またその章の四つの節ごとに「第一次世界大戦はなぜ起こり、世界と日本にどのような影響を与えたのでしょうか」などの課題が示されています。その上でさらに1時間ごとに、「第一次世界大戦はどのように拡大し、日本はなぜ参戦したのでしょうか」など、示されております。

このように、学習課題を積み上げて歴史の流れの中で捉えていく、その中で課題解決を図る、そのような学習が期待されるというふうに考えております。

以上を踏まえ、私は東京書籍を推したいというふうに思っております。

それでは、審議のまとめをしたいというふうに思います。それでは、歴史につきましては東京書籍を評価する意見が多かったようでございますが、歴史については東京書籍が最も評価が高かったというふうにまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、歴史につきましては東京書籍というふうにいたします。

それでは、ここで5分間休憩を取りたいというふうに思います。3時35分までの休憩を取りたいというふうに思います。

(休憩)

#### ○教育長

審議を再開したいというふうに思います。

冒頭、訂正させていただきます。先ほど、審議は本日と明日9日の2日間とし、10日は予備日といたしますというふうに申し上げましたが、審議につきましては明日8日との2日間とし、9日は予備日といたしますということで、日付が間違っただけで、訂正したいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

それでは、再開いたします。

続いて、社会（公民）について審議いたします。委員の皆様、ご意見をよろしく申し上げます。

#### ○三留委員

公民は帝国書院を推薦いたします。今回の各社、教科書の学び方、使い方のページなどを設けて、課題解決型の学習を通じた主体的な学びを重視しているように感じました。ほとんどの社が章、節、各ページそれぞれに、問いや課題を示して主体的な学びを重視しているように感じました。学習指導要領に示されている単元や題材などのまとまりを見通すことを意識した対応と思います。

帝国は、冒頭に教科書を活用した学び方のページを作り、章である単元を通じた学びと毎時の学びの流れについて示しています。単元サイクルと各自の学び方が明確に示してあり、適切と考えました。

帝国書院は、各章の初めに見開きで「学習の前に」という導入ページを設けています。見開き、裁ち切りいっぱいの俯瞰図を示して考えさせ、章の問いをつなげるようにしています。章の学習に関係の深い題材を取り上げ、課題発見という意味でも良いと思いました。

帝国書院では、章の問い、節の問いを明確に示し、振り返りと問いのまとめをきちんと

示しているのが特色と思いました。

私は、小単元にあたる節の学習のサイクルが大切と思っています。帝国書院は、節の各見開きページ全てにその節の問いが載せられています。このことは、小単元サイクルの学習には欠かせないことと思っています。問いに対する各章のまとめのページでは、各節の問いについてまとめ、章の振り返りをするような構成になっていますが、これも大切なことと思います。

公民は、多くの社が思考ツールの活用を取り上げています。帝国書院もその一つです。巻頭ページの中に、考えを整理する方法として、幾つかの思考ツールを紹介していますが、具体的で分かりやすいと思いました。導入や章の振り返りの活動で、Yチャート、座標軸、クラゲチャートなどを効果的に思考ツールとして活用して、考えさせるようにしていると思いました。

帝国書院は本文の内容も分かりやすく、学校意見で教職員から「概念用語や理解の難しい制度、事象については、中学生目線のかみ砕いた本文で解説している」などの意見が寄せられています。

帝国書院の特色として、特設ページ、コラムが充実していることがあります。「未来に向けて」は、環境・エネルギー、防災、人権・多文化、平和・安全、情報・技術、伝統・文化の6テーマから未来社会に関わる取組を紹介するページですが、未来社会をつくるために良い取組が示されています。例えば、人権・多文化のページでは、共生社会実現についての中学生の作文、ハンセン病療養所に併設された保育園、ジェンダーギャップ指数やダイバーシティに関わる自治体の取組などについて紹介しています。適切な題材、話題を取り上げていると思いました。

区民意見でも、多文化共生や人権に関わって、肯定的な意見が寄せられていました。

「公民プラス」は、実社会の動きや新しい事例を紹介するコラムになります。「フェイクニュースにご用心」「人工知能と無人兵器」「プラスチックゴミと海洋汚染」「水素エネルギーの可能性」など、生徒に知ってもらいたいと思う内容が多くありました。

「アクティブ公民」は、具体的テーマを設定して考えたり判断したり、意見交換をしたりする囲みです。「裁判員として裁判の判決を考えよう」や「自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう」など、生徒の公民的な資質を高めるような活動が数多く載せられています。生徒の現代社会の見方・考え方を高め、質の高い探究学習ができると思いました。

「アクティブ公民」とセットに取り上げていることが多い「技能をみがく」は、学習に必要な技能を習得するためのコラムになります。ロールプレイング、ディベート、カードを使っての分析など様々な技能が紹介され、生徒にとっても有益と思いました。

全体的に帝国書院は、生徒の主体的活動、協働的学習につながる様々な記載があり、良いと思いました。

持続可能な社会については、各教科等横断的に取り組んでいきますが、公民はその中でも中核的な役割を果たすべきと思っています。そのため、公民教科書では、どの教科書も持続可能な社会について触れています。

その中で、帝国書院の取り上げ方に関する学校意見では、「持続可能な社会の実現に向けた意識を育む工夫が随所に施されている」など、肯定的な意見が寄せられています。各

社扱いに違いがありますが、帝国書院はその中でも多くの情報を取り上げ、様々な活動を示唆していると思いました。

冒頭の見開き、「よりよい社会を目指して」のページに、各地の特色ある写真とともにSDGsの17の目標を紹介しています。また、第1章「現代社会と私たち」の最初の見開きで、私たちの社会と持続可能な社会を取り上げ、多摩川の清掃活動を示すなどして、持続可能な社会をつくるための社会参画の大切さなどを述べられています。

さらに「ネクスト23」へのヒント、「2023年のSDGs達成とその先を目指して」という囲みページが数多くあります。SDGsに関わる基本的な考え方や最新情報など、SDGs未来都市に生きるこどもには、ぜひ読んでほしいと思いました。

「未来に向けて」のコーナーもSDGsに関わる様々な課題が載せられ、取組が具体的に分かります。

帝国書院の教科書の構成の特色は、第1部 現代社会、第2部 政治、第3部 経済、第4部 国際の後、第5部に課題探究学習を置いていることです。ほとんどの社の巻末に近いページで持続可能な社会について触れており、作品づくりの例などを紹介しているところもありますが、課題探究学習として生徒に主体的に取り組ませるために、きめ細かく記述している帝国書院の扱いは抜きん出ていると感じました。

現代社会、政治、経済、国際の学習など、これまで学んできたことを踏まえて、テーマの例を豊富に設定し、持続可能な社会の形成に向けて解決すべき課題について、一人ひとりが考察、構想しまとめるという内容は、断然良いと思いました。

大田区教育大綱には、大田区の特色を生かした持続可能な社会をつくる教育活動、社会活動が柱の一つになっています。その中に、「持続可能な社会の実現のために、地球規模の諸課題を自らにかかわる問題として主体的に捉え、その解決に向け、行動する力を育てます」があります。おおた教育ビジョンにも持続可能な社会を形成していく態度の育成があり、ESD教育の推進のためにも、必要と思いました。

区内のユネスコスクールでは、帝国書院の5部で示されているような持続可能な社会形成のための探究的活動や発信が行われています。ESD教育推進のために、5部で示されたような学習を大田区内の全ての中学校でやってもらいたいと思いました。

帝国書院は、未来を構想する力が鍛えられ、生徒の社会参画を促す教科書と捉え、推薦することといたしました。

## ○高橋委員

公民は東京書籍を選びました。巻頭にSDGsの取組が写真で紹介され、公民の学習で学習すべきことを考えます。公民で学習する内容を写真で一覧に示し、キャラクターのコメントから進められる工夫があります。

章の構成と学び方は、「課題をつかむ」、「追究する」、「解決する」で章ごとに色分けしてあります。章の初めに導入の活動があり、探究課題を設定、節ごとの「探究ステップ」、節の問い「みんなでチャレンジ」、対話的な学びが示され、それぞれマークで確認しながら学習を進めることができ、身近な問題を考え、イラストやコメントから学ぶ意欲につながる工夫があります。

本文の下には「チェック」「トライ」があり、確認したり、学びを深めたりできます。

本文の周りに、写真、グラフ、イラスト、漫画などの資料がレイアウトよく配置され、色使いも見やすくなっています。

基礎的・基本的な技能を身につける「スキル・アップ」や学びを広げたり深い学びにつなげる「もっと知りたい」、「未来にアクセス」、「もっと解説」が掲載してあり、興味を高め、学習の充実を図れます。

まとめの活動が章末にあり、「確かめよう」「振り返ろう」「深めよう」で学習を振り返り、知識や主体的に取り組む態度などが確認できます。

「18歳へのステップ」には、「18歳でできること」、「20歳でできること」、「選挙の流れ」、「契約と支払い方法のあれこれ」が見開きページで学習でき、これからの自分の心構えとして役立つ学びです。

終章には、「よりよい社会をめざして」があり、各章で学んだことを下に、持続可能な社会の実現に向けて、私たちには何ができるか考え、まとめる学習になっています。

巻末は世界の現状が地図で示され、参考法令集が解説つきで読めるようになっています。

「現代社会の歩み」は、日本と世界の主な出来事が年表で一覧表に示され、関心を持ってそうです。

「デジタルコンテンツを活用しよう」は、様々なコンテンツを紹介し、学習に活用できます。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定的意見が多いと報告されていました。

以上の点から、東京書籍を推薦します。

## ○北内委員

社会（公民的分野）は、東京書籍を推薦します。

理由は、各章、各節の始まりでそれぞれ「探究課題」、「探究のステップ」が、各小単元の冒頭ではその単元の「学習課題」が示され、学習の目的が明確にされ、授業での生徒同士のディスカッションなど協働を通して、解説・写真・図・グラフから「チェック」「トライ」で、思考・判断・表現を育成できる構成となっているからです。また、「導入の活動」と「みんなでチャレンジ」及び「スキル・アップ」で問われている内容が、身近な具体例で示されているため、生徒が理解しやすいと思いました。例えば、市場経済の例として、身近なインターネットオークションで具体的な金額で示されています。

その他、人工知能（AI）など情報化社会におけるメディアリテラシーや知的財産権など、現代の子どもたちが知っておくべき情報モラルと権利について、紙数を割いている点、持続可能な社会の実現に向けて、国際問題として、貧困問題、難民問題、地球環境問題、気候変動と資源・エネルギー問題、紛争を取り扱い、より深い学びができるように配慮されている点、新型コロナウイルス感染症、パレスチナ問題など最新の話題を取り上げている点、「国会議員の地位」では、歳費・期末手当・調査研究広報費・立法事務費・その他の特権を具体的な数字で示し、勤労者世帯平均月収と比較させ、民主主義の観点から説明させる点、写真、図、資料などの配置と配色のバランスが良い点、デジタルコンテンツが充実している点も推薦理由に挙げることができます。

公民的分野に関しては、本区学習効果測定結果から、区内中学生の大きな課題として、

資料を的確に読み取り、自分の考えを明らかにすることが挙げられています。本教科用図書は、資料から考えさせる課題が多く設定され、おおたの生徒に適していると言えます。

区民意見は拮抗しましたが、学校意見は東京書籍に肯定的です。

以上から、私は東京書籍を推薦します。

#### ○深澤委員

私は、公民は東京書籍を推薦いたします。東京書籍は巻頭で、「課題の解決を考えるにあたり何よりも大切にすべきことは、課題を自分事として捉えることです。課題を他人事と捉えている限り、私達はその解決を真剣に考えようとはしません。全ての人々が安心して暮らせる社会とはどのような社会か。そのために今の自分にできることを考え続けましょう」と、公民に対する取り組み方について説明をしていました。

ウクライナ、パレスチナなど近年の世界情勢を見れば、私たちは平和の大切さ、維持する努力を自分事として考えるべきであり、民主主義、人権についても然りです。公民は、社会事象について自分の考えを深めることのできる貴重な機会です。

教科書の進め方もそのような観点から、生徒が多面的・多角的に考察できる工夫がされていました。

内容についてですが、第1章の「現代社会と私たち」で、現代社会の特色として「持続可能な社会に向けて」、「グローバル化」、「情報化」を掲げ、その後学ぶ各章において、これらの特色をSDGsの観点から考えていく構成になっている点が良いと思いました。

例えば人権の分野では、「グローバル社会と人権」の項目があり、国際社会においてどのような人権上の課題があり、その解決に向けてどのような取組がなされてきたのかという課題設定がなされており、経済の分野では経済や金融のグローバル化が私たちの生活にどのような影響を与えているのかについての課題設定がされていました。

このように、グローバルな観点から課題について考えてみる取組は、おおた教育ビジョンの持続可能な社会をつくり出すグローバル人材を育成するという基本方針1に沿う学びであります。

第5章の「地球社会と私たち」では、SDGsの観点から地球規模の課題について様々な問題について考える構成になっていました。2023年度SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定された大田区で育つ中学生には、持続可能な社会を実現するために、現代社会の様々な課題について考えてほしいと思いました。

また、教科書の各ページごとに「チェック」と「トライ」が掲載されているのも良いと思いました。「チェック」では基本的な知識の確認をし、「トライ」ではそのページで学習したことを生かして、自分の考えを深めることができます。

学校意見でも区民意見でも、東京書籍に好意的な意見が多くありました。

以上の理由から、私は公民については東京書籍を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

東京書籍を推薦いたします。導入部に興味・関心を持ってもらうための大きなイラストがあり、学習目的がはっきりしていると思いました。「スキル・アップ」では写真、地

図、グラフなどが書いてあって、また調査分析などを身につけるようになっているところが良いと思いました。漫画やイラストなど、豊富に取り入れて興味を持って学習できるのではないのでしょうか。

巻末に、中学校、高等学校以降に配慮した高等学校の必須科目の公共について解説、紹介しているページが掲載されていました。

まとめのページには、思考の整理に役立つ思考ツールや学習内容を確認するクイズが載っていて、深い学びにつながっていくと思います。

「18歳のステップ」は非常に良いまとめで、18歳でできること、20歳でできることを分かりやすく整理していると思いました。

「もっと解説」では、重要な用語をさらに詳しく説明しているので、深い学びにつながると思います。

大田区の資料が豊富に使用されていて、生徒の興味・関心が引き出せる内容になっていると思い、東京書籍を推薦いたします。

## ○教育長

私は、公民は東京書籍が良いというふうに思います。公民は、地域や社会の形成者としての資質・能力を育成する教科です。大田区では、来年度から小学校5、6年生で新たな教科、おたの未来づくりを実施いたしますが、子どもたちが地域や社会に目を向けて課題を見つけて、地域や社会の人たちとともに地域社会の課題解決について考え、取り組んでいくということは、これからの子どもたちを育成するために大変重要な学習であるというふうに思っています。

また、中学校におきましても、公民的な資質の育成はこれからの社会において主体的に生きていくために大変重要であるというふうに思います。中学生が地域や社会の課題に目を向けて取り組んでいく活動は、ぜひ推進していきたいというふうに考えております。

私が東京書籍で良いと思った点は、各章の終わりに「深めよう」という単元があり、子どもたちが地域課題に対して自分の考えを述べ合う活動が工夫されている点です。「新しい公園の使用ルールを考えよう」、「S市の議員になって条例をつくろう」、「コンビニエンスストアの新たなサービスを企画しよう」など、実際の社会の課題も踏まえて、自らの考えを述べ合う、そういうような工夫がなされています。

また、「新しい情報技術で社会が変わる」など、生徒の興味を発展させるコラムが豊富にあることも、公民的資質を高める上で良いというふうに思いました。

さらに公民の学習のまとめとして、最初の章に「よりよい社会を目指して」という単元では、課題設定、課題探究、意思決定、提案参加というような一連の課題追究も設定されており、持続可能な社会を実現するための探究学習として、大変に良いというふうに思いました。

それでは、公民につきまして審議のまとめをしたいというふうに思います。公民につきましては、東京書籍が最も評価が高かったということでまとめてよろしいのでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

## ○教育長

それでは、社会（公民）につきましては、東京書籍といたします。

続いて、地図について審議いたします。委員の皆様のご意見をお願いいたします。

## ○三留委員

地図は帝国書院、東京書籍の2社のうち、帝国書院を推薦いたします。帝国書院、東京書籍共に、全体的には似たような紙面構成になっていると感じました。両社ともA4判になり、全体的にワイドに地図を掲載しているのが良いと思いました。

帝国書院は最初に、この地図帳の使い方のページを設け、地図帳の見方、使い方を分かりやすく解説しており、必要なことと思いました。その後「地図で考える持続可能な社会」のページがありますが、地図に関わるSDGs等の必要な事項が7ページにわたって記載されています。地図や写真を用いて、各地での解決しなければいけない問題等が分かりやすく示されていて、大田区の生徒に知っておいてもらいたいことと思いました。

日本の各地方の地図は、両社とも100万分の1が基本となっていますが、帝国書院のほうが全体的に明るい色合いで捉えやすいと思いました。

見やすさについては、区民意見でも学校意見でも帝国書院に肯定的な指摘がございました。

日本の各地方の地図については、東京書籍が地形図中心などに対して、帝国書院は土地利用についても示しています。だからといって地形が分かりづらいわけではありません。中学生の地図帳ということで、段階に合わせて地図の要素を盛り込んでいくことも必要と思いました。

大都市圏については、50万分の1の地図の中に様々な要素を盛り込み、地域的特性が読み取りやすいようになっていると感じました。

帝国書院の「世界の各州の地図」では、冒頭に周囲や中心地域のイラストの入った親しみやすいダイナミックな鳥瞰図が記載され、地形や歴史、文化、産業などの特徴的なことを分かりやすく概観できます。全体的に総ページ数が多いこともあり、各種地図、統計が豊富で見やすく、地理等の学習を補完する役割を十分備えていると考えました。

世界各州の資料ページでは、植生と土地利用、人口密度などが一貫して示されており、それぞれの特色がよく分かります。

日本の各地方の資料ページには、自然、人口、産業などの資料が各地方に必ず載せられており、それぞれの特徴をつかむことができます。

地図の示し方も多様になっていると思います。多様な図法の地形を使って効果的に示しています。南北が逆さになっている大陸から見た日本の地図、世界の航空路と東京からの距離を表した正距離図法の地図などは目を引きます。

また帝国書院は、防災の資料が充実しているのも特色だと思いました。日本の自然災害、防災については、4ページにわたって、地震と火山分布、気候災害などについて、地図と写真、図解等で分かりやすく記述されています。日本各地の災害が大規模化している現在、生徒に防災意識を持たせていくことは大切なことです。

さらに帝国書院は、日本の各地方の全てのページで、火山災害、水害、地震災害、雪害などに関わって災害に関わる資料が掲載されています。防災について考えるため、必要な

資料と思いました。関東地方は、東京都の大規模災害への備えを載せていますが、生徒に把握させておきたいことと感じました。

帝国書院は「地図で発見」という問いに答えたり、考えさせたりする取組が多くページで載せられています。地図に興味を抱かせ、地理的な見方・考え方に繋がるものになっていると感じました。解答と解説はQRコンテンツで見ることができ、地理的な見方・考え方の育成にもつながります。

以上、総合して地図は帝国書院を推薦することといたしました。

#### ○高橋委員

地図は帝国書院を選びました。巻頭は片開きで大きく世界の国々が色分けされて示され、生徒たちのコメントで気づきながら見ることができる。地図を読むための一覧、具体的な活用例を示した凡例、使い方や「地図で考える持続可能な社会」では、世界の様々な取組について学べます。

世界の地形、気候、生活、文化は写真と資料などで興味・関心が持てます。

日本地図では、歴史、文化、観光も地図から学べ、本州中央部の地図には五街道が資料とともに掲載してあります。

アジア州から始まる地図は色使いがはっきりしていて見やすく、一般図、鳥瞰図、続く資料も写真や主題図などで学ぶことができる。

また、多文化の関連、SDGsのアイコンで、小学校での地図学習との関連、歴史、公民での学習に役立つ資料を示しています。

「地図で発見」は、地図を基に確認したり深めたりする問いのコーナーが、全部で156問あり、チェック欄で確認しながら学びを進めていきます。

日本の地形、気候に続く「日本の自然災害・防災」の気象災害では、台風、線状降水帯から洪水や浸水を学べ、地震、火山の分布について示し、海溝、プレートの図や資料により主題学習の問いかけから学習できる工夫があります。

世界と日本の人口、世界と日本の鉱山資源、日本の工業、日本の農業、水産業、世界と日本の交通、観光、日本の歴史、生活、文化など、学習に役立つ資料が掲載してあります。

自然の統計、世界の統計、日本の統計、国土地理院の地形図、都道府県と昔の国名、日本の領土とその周りの国々、巻末にある日本の東西南北端は、写真と地図でとても理解しやすくなっています。

デジタルコンテンツを活用して、学習に役立つ地図や統計動画など、主体的な学習を深めることができる。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定的意見が多いと報告されました。

以上の点から、帝国書院を推薦します。

#### ○北内委員

地図は、帝国書院を推薦します。

推薦理由は、各地域の特色を撮らえたカラフルな写真が多く掲載され、見ているだけで行きたくなると思わせる点、「世界の地形」では海嶺が、「世界の気候」では海流が大きく

示され、プレートテクトニクス、地震、西岸境界流など理科（科学）と関連させて、より深い学びができる点、世界の環境問題の例として、縮小する北極海の結氷範囲や消失するアラル海の子を、過去と現在の画像で示して比較しやすくしている点、2022年の北磁極と南磁極、自然災害では、線状降水帯や（現中学生が小学生の時に見た）長野新幹線車両センターの北陸新幹線の水没など、最新の情報を取り入れている点、移動教室で行く野辺山原（のべやまはら）が鳥瞰図で示され、JR線の最高地点や清泉寮などの地理的位置関係を把握できる点、裏見開きで、日本の領域（領土、領海、領空）について、地図と写真を用いて明確に示されている点、地図、資料などの配置と配色のバランスが良い点、索引と統計の文字が大きく、見やすい点を挙げるすることができます。

学校意見、区民意見、共に帝国書院に肯定的です。

以上から、私は帝国書院を推薦します。

#### ○深澤委員

私は、地図は帝国書院を推薦します。

理由は六つあります。

一つ目は、帝国書院の地図は色彩が豊かで、鳥瞰図では緑の濃さによって山脈、高原、平原を認識することができました。山の高さも険しい山脈は白く、高さが低い山は茶色や緑で表現されているので、俯瞰してその地域の高低や状況をつかみやすいと感じました。

二つ目は、東アジアと日本の交流の歴史のページで、大陸から見た日本の地図が書かれていた点です。大陸から見た日本は、東京が上部、北海道が向かって左側、九州が右側になっており、今までに見たことがない地図でしたが、基点を大陸とすると日本の見方が変わり、新たな気づきがあることに大変興味深く感じました。生徒たちにも、外国から見た日本の視点に気づいてほしいと思いました。

三つ目は内容についてですが、「地図で考える持続可能な社会」という項目があり、環境問題、脱炭素問題、食糧問題、紛争について、写真が掲載されるとともに、地図上で数字を示して説明されていました。難民の発生総数が国ごとに色分けされていたり、アフガニスタンからドイツ、ミャンマーから他国へ大量の難民が移動した様子が矢印で視覚化されており、地図を活用してSDGsについて学ぶことができるようになっていました。

四つ目は、資料に歴史、公民というマークがあり、当該資料は歴史と関連する、公民と関連するということが分かるようになっていました。歴史と関連するという点では、政治的な背景から国境が歴史的に変遷してきたヨーロッパや、日本とロシア、ソ連の国境の資料が掲載されており、国境の変化について国ごとに色分けして掲載されているので、大変分かりやすいと感じました。

五つ目は、地図を基に学習を深める問いかけ形式の「地図で発見」というコーナーが、本書を通じて156問ありました。知識を問う問題、参考資料から読み解く問題など様々な問題が掲載されており、答えは二次元コードに載っているのが良いと感じました。

六つ目は学校意見、区民意見も帝国に肯定的な意見が多くあったという点です。

以上の理由から、私は地図については帝国書院を推薦いたします。

### ○弘瀬委員

私は帝国書院を推薦いたします。地図全体のどこを見ても鮮明で美しい印刷で、非常に見やすいと感じました。

地名にルビが振られていて分かりやすい。漢字についても、ルビが振られているのは子どもたちにとって良いことだと思っております。

ユニバーサルデザインがあらゆるところに使用されていて、色だとか文字の書体、大きさなど、非常に分かりやすくなっております。

鳥瞰図は世界の6州についてみんな載っていきまして、各州の地域的特徴を体感できるようになっていました。

「手話で表してみよう」は、インクルーシブ教育に配慮しているものと思えました。

「地図で発見」では、地理的な見方・考え方ができる問題となっていました。

SDGsのアイコンがついた資料が豊富にたくさんあること、多くのQRコンテンツがあること、以上から自分で自宅学習ができやすいと思えました。

自然災害と対策について、分かりやすく示しています。防災学習に役立つ地震、火災と気象災害の二つに分けて、巻末の主題図で扱っているところが非常に良いと思えました。

これからぜひ、子どもたちには防災、そして自分の身を守るということを考えて欲しいと思えました。以上より帝国書院を選びました。

### ○教育長

私も地図は帝国書院が良いと思えました。土地の高低が色の濃淡で比較的是っきりと表現されていて、分かりやすく見やすく感じています。また、見開きが多く、地図を真ん中にして周りに写真が数多く配置されていて、地図とともに写真を生かして自然、文化など地理的な情報が豊富であるというふうに思いました。

地図ばかりでなく資料が豊富で、興味を持つことができる地図であるというふうに思いました。

それでは、審議のまとめをしたいというふうに思います。地図につきましては、帝国書院が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

### ○教育長

それでは、地図については帝国書院といたします。

続いて、数学について審議します。委員の皆様のご意見をお願いいたします。

### ○三留委員

数学は、東京書籍を推薦いたします。これからの数学の学習においては、生徒が問題解決の見通しを立て、発展的に解法を把握できるようにして、数学的な見方・考え方を深められるようにしていくことが大切と思っております。そのため、数学の授業では、課題提示と問題把握、見通し、自力解決、練り上げ、振り返り、広げるというような過程が必要と考えております。

ほとんどの社が冒頭で、数学の問題解決に触れていますが、東京書籍は「大切にしたい数学の学び方」というページを各学年見開きで取って、問題解決の過程をキャラクターの対話を入れながら説明しています。学習の流れの中に小集団検討の場面を入れているのも良いと思いました。

問題解決学習のさせ方に関する記述に優れ、生徒の数学的な活動を支える工夫がされているのは、東京書籍の特色と捉えました。さらに、各所に「深い学び」という習得した知識・技能を活用して、問題解決を深めるページがあります。内容も興味深いものになっていて、自ら考えを深めるような構成になっています。

東京書籍は、各ページの題材ごとに課題を示しています。「考えてみよう」「調べてみよう」の提示内容も多く、例題で解法をつかませ、練習問題で習得を図るような構成になっています。こうした構成は、こどもの学びの充実につながると思いました。

学習の個別化という点でも配慮が見られます。発展的課題も充実していますが、どの子にも押さえてほしい問題には、目立たない程度でハートマークがつけられています。デジタルコンテンツで解き方のヒントが表示されたり、生徒の実態に応じた問題数が確保されたりしているなど、生徒の習熟に合わせた対応が意識されていると思いました。学校意見でも、「数学の苦手な生徒から得意な生徒まで、幅広い生徒が取り組みやすい内容となっている」がありました。

また東京書籍は、単元である章の導入の示し方に工夫があり、生徒の興味を抱かせるものが多いと感じました。とびらで興味を引きつけるインパクトのある絵や図などを示し、章の学習の概観や問題提起をします。さらに、次の見開きページで詳しく解説し、節の学習に結びつけています。

例えば3年生の多項式の計算では、他者に見られないドミノ倒しのコースを示し、どのコースが先にゴールするかという投げかけをして学習を始めています。これについては二次元コードから入るシミュレーション等で、その様子を見ることができます。こうしたインパクトある導入は、生徒を学習に引きつけていくと思えます。

2年生の連立方程式では、東京書籍を含めて2社がバスケットボールの3点シュートと2点シュート、3年生の関数では、東京書籍を含めた3社がジェットコースターの動きを扱っていますが、生徒の実態に合った興味や関心を持たせるために良い導入だと思えました。これも、シミュレーション動画でその様子を実感できます。

今回の東京書籍の特色として、ほとんどのページに二次元コードが載せられていて、こうしたシミュレーションを含め、フラッシュカード、動画、対話シートなど、ICTで学べるコンテンツが充実しています。

さらに東京書籍は、各学年の巻末が充実していると感じました。これまでの学習で使った問題解決の共通点を振り返る「数学を目でふり返ろう」、学んできたことの性質や公式を確認する「学びのベース」、「補充問題」がありましたが、どれもよく考えられていて活用できると思いました。

「数学の自由研究」というページも数ページを用意されていて、生徒の興味を引く題材を用意していました。

教科用図書調査委員会報告に、東京書籍は「身の回りや社会とのつながりを示すことで、生徒は数学の必要性や有用性を感じられるような内容になっている」とありますが、

数学の内容を生活と関連させたり、自分ごとにしながら生徒が追究したりしていくことで、思考力・表現力など数学に関わる能力育成にもつながると思いました。

以上、総合して東京書籍を推薦することといたしました。

#### ○高橋委員

数学は東京書籍を選びました。算数と数学同士のつながりや身の回りや身近な問題、社会とのつながりを示すことで、生徒が学習の必要性、有用性を感じられるようにしています。

「学び方」では、問題をつかむ、見通しを立てる、問題を解決する、振り返る、深めるとし、取り組み方を示しています。

節の導入で問題提示があり、学習活動は「考えてみよう」から順序よく進められ、例題、練習問題など配色を変え、分かりやすく工夫されている。必ず解けるようになりたい問題にはハートマークが示されていて、「クイックチェック」には必ず身につけたい問題があります。

節末には、「基本の問題」で学習した内容の確認、章末には「章の問題」で応用したり活用したりする問題があり、チェック欄もあります。新しい学習の入り口である章とびらは、身近な問題、問いかけから始まります。

0章では、「算数から数学へ」で九九表を見直していろいろな決まりを見つける学習をします。章ごとに振り返りレポート「学びを振り返ろう」で見方・考え方を学びます。

「数学の窓」は、学習に関連した読み物を読んだり、問題を解いたり、興味深く取り組みます。

数学はどのように役立っているか、プロの話聞くページは、社会とのつながりが感じられ、数学を学ぶ意義につながります。

巻末には、「もっと数学をつなげよう」、「数学の目で振り返ろう」は、見方・考え方でイラストを工夫してあり、つながる学習です。

「数学の自由研究」は興味を持って取組ができます。

二次元コードが豊富で、授業では導入で動画ワークシート、活動ではシミュレーション・対話シート、演習でフラッシュカード、「ちょっと確認自学自習」ではヒントと回答、フラッシュカードなど学びを広げることができます。

教科用図書調査委員会は、学校意見では肯定的意見が多いと報告されました。

以上の点から、東京書籍を推薦します。

#### ○北内委員

数学は、東京書籍を推薦します。

理由は、習熟度に応じた個別最適な学びができる構成となっているからです。更に、「基本の問題」「章の問題」だけでなく、「補充の問題」「数学の自由研究」により、より深い学びができるように配慮されているからです。また、設問が身近な具体例で示されているため、生徒が理解しやすいと思いました。例えば、東京湾アクアラインの標高と水深や富士山山頂の標高と伊豆・小笠原海溝の水深を用いて、正負の数を教えています。

その他、1学年では0章「算数から数学へ」を設け、小学校の算数から中学校の数学へ

の導入を図っています。

また、数学と理科の面白みを伝えている点も良いと思いました。数学に関しては、「素数のひみつを調べよう」、「円周率 $\pi$ の歴史」、理科に関しては、「地震のゆれの予測の仕組み」、「はちの巣の形のしくみ」、「フラクタル模様を知ろう」です。

そして全学年、データ分析にかなりの紙数を割き、丁寧に説明されている点も良いと思いました。あと、デジタルコンテンツが充実している点も、推薦理由に挙げるができます。

そして全学年、レポートのまとめ方を載せ、1 動機と目的、2 方法、3 結果、4 考察、5 感想、6 引用・参考文献のように、論理的にまとめ、資料をつくる方法を説明している点がとても良いと思いました。おたの生徒には、自主的に課題設定し、問題解決できる力をつけてほしいからです。

数学に関しては、本区学習効果測定結果及び第3期「おた教育ビジョン」の事業実績と評価から東京書籍を使用した指導による一定の成果が表れていると言えます。また、その内容は、第4期「おた教育ビジョン」とも合致しています。

区民意見は拮抗しましたが、学校意見は東京書籍に肯定的です。

以上から、私は東京書籍を推薦します。

#### ○深澤委員

私は、数学については東京書籍を推薦いたします。

その理由は三つあります。

一つ目は、数学に親しみを持てる工夫をしているという点です。ページごとに二次元コードがあり、そのページで学習することを可視化することができたり、また遊び感覚でできる簡単な問題演習が掲載されているので、そのページの学習を理解しやすいと思いました。

また、単元の終わりに「数学の窓」というコーナーがあり、このコーナーでもその単元に関係する題材を取り入れた楽しく取り組むことができる問題が掲載されていました。

二つ目は、数学が実社会においてどのように利用されているかを、随所で示していた点です。

例えば、関数の単元の導入で、「水族館の水槽に水をためるのにどのくらい時間がかかるかを考えてみよう」と、身近な題材から入っている工夫がされていました。また、スポーツ栄養士が選手の献立をする場合や、伝統工芸士が松や扇子、亀甲などの伝統的な模様を帯に施す場合に、数学がどのように使われているかを示すことによって、社会における数学の有用性や他の教科との関連性を示して、キャリアにつなげる場面もありました。

実社会において、現に使われている実践的な数学を学ぶことは、AIの発達により将来の予測困難な未来に生きるこどもたちに、数学的なものの見方や考え方をする素地をつくり、人間ならではの発想や発明をする契機になるものと考えます。

そのためには、日常生活や社会の事象を数理的な観点から捉えて数学的に表現、処理し、問題を解決していくというアプローチが必要になってきますが、東京書籍はこの点を意識して作成されていると思いました。

三つ目は、どの単元でもこの問題は必ず解けるようになっておいてほしい基礎的な問題

に印がついていました。単元末に掲載されている問題は、基礎的な問題と自ら進んで取り組む問題と明確に区別され、学習の進度に合わせた勉強ができると思いました。

教科用図書委員会でも、授業における生徒の習熟度に応じた問題数が配置されていると指摘がありました。

以上の理由から、私は数学については東京書籍を推薦いたします。

#### ○弘瀬委員

私は、東京書籍を推薦いたしたいと思います。小学校と中学校をつなぐ1年生0章の扉で、九九は暗記するものではないということ、表から数の決まりを見つけることで、数学の面白さが分かってほしいと思っております。

「学びのページ」では、2年生にはマジックシートの決まりで、文字式問題につなげていること、3年生ではドミノ倒しを題材にして、「先にゴールするのはどのコース」で比較問題を結びつけていることなど、数学の面白さが分かってもらえる題材が多いと思えました。

二次元コードが豊富であることも一つです。

「マイ教科書・マップ」で身の回りや社会のつながりを示すことで、数学の必要性、有用性が感じられるのではないのでしょうか。

ワークシートはPDF形式のために、自分のパソコンにダウンロードできて書き込みができるので、自由な発想ができて、深い学びにつながると思います。

証明問題が苦手な人には「証明メーカー」を利用することで、証明の道筋、根拠などを導いてくれて、使い勝手が良いと考えます。

「フラッシュカード」は、自宅学習を行う上では有効だと思っております。

「クイックチェック」が導入されて、生徒の習熟度に応じた問題数が配置されていて、またヒントや回答、類似問題があるので、自宅学習には良いと思えました。

身につけてほしい問題にはハートマーク、練習問題、基本の問題にはチェックボックスが設けられて、生徒自身が学習状況を把握しながら進められているように配置されていると思っております。

以上から、東京書籍を推薦いたします。

#### ○教育長

私も、数学は東京書籍が良いと思えました。東京書籍は数学的に考える力を非常に大切にしているというふうに思います。生徒が十分に考え、解に至るように、問題やその解法が吟味されているように思います。因数分解など計算の仕方を機械的に操作で覚え込むだけでなく、その意味や解き方を十分に考え、理解しているところが良いのではないかとこのように思います。

数学は、方程式や対数、図形の証明問題など中学生としてかなり難しい内容もあるように感じます。数学的な考えを磨いていかないと解けない問題があるのではないかとと思いますが、数学でつまずいてしまう、そういう生徒も多いのかというふうに思いますが、東京書籍の問題は生徒が数学的に十分考えるように問題が吟味され、生徒が興味を持って考え、解を求める達成感というのが味わえるように思います。また、その中で数学の面白さ

も感じる生徒もいるのではないかというふうに思います。

二次元コードが大変充実していて、繰り返しやり方を考えるなど、個別の理解、習熟にも良いのではないかというふうに思います。

それでは、数学の審議のまとめをいたします。数学については、東京書籍が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○教育長

それでは、数学については東京書籍といたします。

以上で、本日の教科書採択についての審議を終了いたします。

次回は明日8月8日木曜日、午後2時に開催する臨時会において、理科、音楽（一般）、音楽（器楽）、美術、保健体育、技術・家庭（技術）、技術・家庭（家庭）、英語、道徳の9種目について審議を行います。各委員は引き続き調査研究をお願いいたします。

なお、令和7年度使用大田区立中学校教科用図書採択については、議案の決定をもってなされるため、明日の審議終了後に議案の提出がなされます。議決をいただく予定でありますので、申し添えておきます。

これもちまして、令和6年第8回教育委員会定例会を閉会といたします。

令和6年 第8回 教育委員会 定例会 8月7日(水) 午後2:00～

大田区産業プラザPiO コンベンションホール

<令和7年度使用大田区立中学校教科用図書採択について>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和6年8月7日

令和6年第8回教育委員会定例会日程

日程第1 令和7年度使用大田区立中学校教科用図書採択  
について